

# VASCULAR ACCESS NEWS

## Web Vol.22

### 看護師・臨床工学技士の 業務の標準化について



JCHO宮崎江南病院  
透析室 看護師長  
平山 薫 先生



臨床工学技士 主任  
淀川 菜穂子 先生

#### はじめに

当院は、地域医療支援病院としてベッド数269床を有する病院です。関連施設としては、健康管理センター、介護老人保健施設、訪問看護ステーション、居宅介護支援センターを有しており、地域に信頼される病院として医療、介護、福祉に貢献していけるように努めています。その中においての透析室は、県内の透析施設の中核病院としてベッド数60床を有しています。県内からシャント関連やその他合併症の紹介入院も多く受け入れています。

#### 安全な透析医療の提供のための臨床工学技士採用

当初、当院の透析室はベッド数31床であり、透析室スタッフは看護師のみでした。しかし、患者数の増加による看護師の業務量増加があり、また透析機械トラブルの対応、メンテナンス等早期に対応していくことが課題になりました。そこで2008年度より臨床工学技士(以下MEとする)2名が採用となりました。所属は、看護師と同じ看護部でした。看護師がプライミング～返血までの操作及び透析液の管理や透析材料の発注・機械トラブル時に対応していましたがME採用後に看護師・MEの業務区分を明確化するためのチームを立ち上げ検討していくことにしました。まずは、MEの業務内容を把握することから始めました。MEは、「生命監視装置の管理を行うことを業とする」と臨床工学技士法で定められており、透析業務においてMEがしてはいけない業務の選別を行いました。その後、MEがすべき業務と看護師との共同業務を明確化させていき、スタッフ全員が把握しやすいように文章化し提示することにしました。このようにして、ME採用年度は、看護師とMEが協力して業務が行えるように業務整理を行いました。

#### 看護師とME業務の不透明化でのモチベーション低下

2008年以降、毎年2名ずつMEを採用していきました。MEは透析材料の管理や透析液の管理・透析機器のメンテナンス等幅広く業務を行っています。ME採用前の透析機器のトラブル時は担当業者へ連絡してからの対応で、しばらく透析機器が使用不可になることもありましたが、すべてMEがメンテナンスを行えるようになり、早期に対応することが可能になりました。看護師とMEの業務区分も明確化により、スムーズに業務が行えるようになりました。

しかし2010年に透析室の移設改築によりベッド数が60床へ増床し、患者数が増加しました。そのため、再びマンパワー不足となり医師の方針でMEも患者を受け持ち、看護師と同様の業務を行うことになりました。しかし、MEは本来の業務ではないことをしなければならず、次第にモチベーションが低下していきました。看護師とMEのチームワークも上手いかなくなってきたため、再度業務を見直すことにしました。今回の業務内容は医師の方針でもあったため、医師にも業務見直しの許可をもらいました。そして、業務改善のプロジェクトチームを立ち上げました。現状の問題と課題を出していき、MEは透析中安全に透析療法が行えるように透析機器の管理を行い、看護師は、患者が安心して透析を行えるように看護を行うことを念頭におき業務を整理しました。

## ME業務の拡大

透析業務におけるME業務が確立してきたため、ME業務の拡大を考えました。2008年度より3年間は透析室内での業務でしたが、病棟看護師の要望にて、2011年の後半より輸液ポンプの管理をMEが行うことになりました。定期メンテナンスやトラブル時の対応を行うことで輸液ポンプを安全に使用できるようになりました。

このように、少しずつ業務を拡大していくことで病院全体においてもMEの存在が認知されるようになりました。MEの必要性が高まったことで、ようやく2015年1月に臨床工学室として部署を設けることができ独立することができました。

## 臨床工学技士として業務分担の拡大をして

当院では、看護師は透析中の患者ケア、内服、安心・安全な治療提供を行う。MEは治療設定・機械点検、警報時の対応、安全な治療提供を行う。ということをお大卒で考え業務分担をしています。

本来の業務を分担したことで、患者により安心・安全な治療を提供できているのではないかと思います。

当院の透析室では、On-lineHDF、i-HDFを積極的に行っており、MEは、水質管理やETRF交換を担当し、看護師は、治療中の患者ケアを担当しています。

また毎月、医師・看護師・MEにて透析安全管理委員会を開催し、治療方針について意見交換を行い、連携を図っております。

現在は透析業務だけでなく、24時間CHDFやDFPPをはじめとしたアフエーシス治療、手術室の機器点検、分散管理ではありますが院内の医療機器管理を行っております。特に医療機器管理システムを導入し、透析装置60台も含めてバーコード管理化、異常や修理履歴もタブレット端末を活用して対応するようになりました。このように機器管理を業務として拡大することで高いモチベーションを持って仕事に取り組んでいます。

これまで数年かけて、医師や看護師の協力があり、少しずつMEと看護師の業務分担とMEの業務拡大を行い、現在は10名体制となっています。これからも透析室の全スタッフと連携を図りながら、安全な治療提供に努めていきたいと思っております。

共有	看護師業務	臨床工学技士業務
プライミング	体重測定	透析液作成及び浸透圧測定
穿刺	体交、排泄ケア	透析開始後の点検
バイタル測定	入院患者の対応	装置異常時の対応
DWやダイアライザ変更の指示受け	注射、内服の指示受け	透析装置の洗浄、消毒
内服	薬剤準備	透析時、使用した機器の点検
血液回路からのBSチェック	創部消毒、包交	水質管理(ET測定、ETRF交換)
急変時やトイレ離脱時の対応	静注、筋注、輸血施行	ダイアライザの準備
ECGモニタ接続	個々Ptに沿った看護援助	保守管理機器の定期点検
血液回路への付属回路接続		透析装置の部品交換
回収時の注射		CHDF、アフエーシス治療施行
回路片付け		
シーツ交換、ベッドメイキング		
翌日分の準備		
回路セッティング		
時間外の緊急透析対応(各1名)		

表：看護師臨床工学技士業務



写真：透析室のみなさん



日本コヴィディエン株式会社

お問い合わせ  
0120-998-971

medtronic.co.jp

Medtronic